

Eiche

# Die Eiche ティ・アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in der Präfektur Chiba

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町 2-681 ワールドナーシングホーム内

Phone: 047-467-6111 Fax: 047-467-6123

## 第12回ドイツ軍人慰霊祭開催

習志野霊園慰霊碑前にて



フリッシュフート武官



当協会の主要行事であるドイツ軍人慰霊祭は、11月19日(日)11:00より、例年のとおり船橋市習志野霊園に於いて行われた。今回は、新任のヴォルフガング・フリッシュフート空軍大佐が初めて習志野霊園に来られるということもあり、天気心配された。特に前日からの天気予報は「雨」で、初めての雨中での慰霊祭として、残念ながら例年より短縮して切り上げることも・・・と考えていたが、それまで小降りであった雨が、10:00頃には上がり、慰霊祭が始まってから約40分は、雨の降らない中で式が行われた。式は例年通り、先ずドイツ国歌演奏(テープ)の後、武官、平尾浩三会長、船橋市長代理の寺田一男環境衛生課長、習志野市長代理の小林伸二生涯学習部長による慰霊の辞、橋口昭八常任理事による御霊紹介、軍人葬送歌「よき仲間」合唱、献花と続き、この頃から雨が降り始めたが、何とか記念撮影も無事に終了。直会(なおらい)では、武官が日本語で挨拶、奥さんとはミュンヘン独日協会でも知り合われたとのエピソードや新入会の佐倉在住の医師丸山孝士氏夫人の、るみいさんが、大正12年(1932年)ビート糖製造技師として北海道に派遣されたフリードリッヒ・コッホ氏のお孫さんであることなどが紹介された。会は和やかなうちに13:00過ぎに終了。参加者48名。

### 慰霊の辞

ドイツ連邦共和国大使館武官  
ヴォルフガング・フリッシュフート

#### ご出席の皆様

十月一日からドイツ大使館で国防武官として働いております、ヴォルフガング・フリッシュフートです。

それで、ドイツの国民哀悼の日にあたって、戦争や独裁政治による犠牲者を悼むこの日に、この慰霊祭に出席することになりました。

ハンス ヨアヒム デア駐日大使に代わり皆様には、そして、特に千葉県日独協会の皆様には、この墓地の維持の為、永年に亘って続けてこられたご協力に感謝します。死者とどう向き合うかで、その民族の真価がわかれると言われています。此処に眠るドイツ人兵士に対し皆様が示したその深いお気持ちに感銘を受けました。又、このように厳かに慰霊祭を行っていただきましたことに対しても感謝申し上げます。今後ともご支援の程、お願い致します。

ここに眠る三十人のドイツ兵士は一九一五年から一九九年にかけて当時の捕虜収容所で亡くなった人達です。しかしそれは酷い扱いによるものではなくスペイン風邪の犠牲となったのです。事実、ドイツ人捕虜と日本の人達との関係は非常に心温まるものがありました。思いやりと任務遂行という素晴らしい手本となったのは西郷寅太郎収容所長でした。西郷所長は、感染を恐れず、収容所に留まり、一九一九年にやはりこの病気で亡くなりました。

これらの人達は、ドイツ人と日本人が互いに抱いている友情に沢山の貢献をしたと言えます。ここに眠る人達の魂がこの慰霊祭に集まっている私達を見たらきっと喜ぶことでしょう。この機会に皆様のご家族の中で戦争で亡くなった方々、そして、世界中で戦争の犠牲となった人達にも思いを馳せたいと思います。皆様、亡くなった人達に黙祷をいたしましょう。

## ～今後の催物案内～

### 1. 新春講演会

日時：2007年1月28日(日)14:30~17:00

場所：中華白チョウ

(JR西千葉駅南口、西友の左側大通りを直進、信号を渡った右角です。

駅より徒歩3分。

TEL：043-243-2581)

講師：尾田幸雄お茶の水女子大名誉教授  
当協会理事

演題：「日本とドイツの哲学交流」

演題のとおり大局的な話から最近のイジメなど身近な問題まで、幅広くお話していただく予定です。

会費：2,500円(飲食費、税含む)

申し込み：1月24日まで。

\*フォンドラン独日協会会長兼アム・ニーダーライン独日協会会長 Dr.フォンドラン氏が千葉県訪問

本年5月20日、当協会ドイツ視察旅行団がデュッセルドルフのエルヴィン市長による堂本知事歓迎レセプションに参加の席上、平尾会長とDr.フォンドラン氏の間で両協会の協力につき、意見交換が行われた。その後、同氏は10月初めに来日、再度当協会との話し合いを申し入れてきた為10月2日に平尾会長以下4人の役員が同氏夫妻とミーティングを行い、主として高校生の相互派遣につき具体策を検討した。その結果、

- ① 両協会が一年交代で、高校生2名を夏休みに2週間派遣する。
- ② 交通費は出発側が負担、滞在費は受け入れ側が負担する。
- ③ 日本側の受け入れは、宿泊所を決め、工場見学、文化紹介、観光等のカリキュラムを作成して交代で世話をする。といった素案を作成。

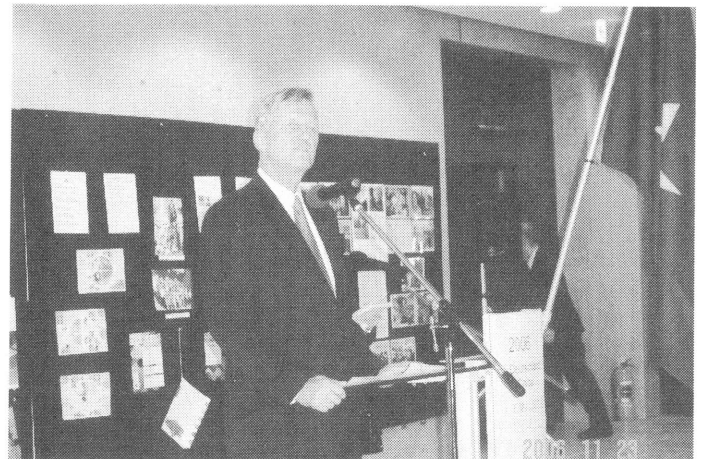


左側手前にフォンドラン夫妻

## 写真展「ドイツと千葉県」開催

於 ドイツ連邦共和国大使館

昨年10月20日より3日間に亘り、当協会はドイツ年協賛行事として「ドイツに親しむ3日間」と題して千葉大学けやき会館にて、講演会、演奏会、映画会などを開催し、同時に同会館ロビーで「ドイツと千葉県」と題する写真展を行った。内容は既に会員にはご承知のとおり、県内の11団体とドイツとの関係を写真と説明文で紹介するもので、今回は大使館よりの要請により再現したもの。今年の初夏から国枝副会長を実行委員長として、橋口常任理事、坂本宗秋、小野浩理事らを中心に何度も広尾の大使館に出掛けて、シュミット一等参事官、トーカー文化担当と打ち合わせを重ねてようやく11月23日(木)18:00よりの開会式にこぎ着けた。当日は祝日の夕方とあって、来場者は限られたがデア大使、木村敬三日独協会副会長、平尾会長が開会挨拶。特に大使は、これから首都圏だけでなく日本各地に積極的に出掛けて行きパブリック・ディプロマシー(民間外交)を推進して行きたいと抱負を述べられた。後、平尾会長の司会で千葉県庁総合企画部政策推進室の国際政策グループ長濱本氏が千葉県とデュッセルドルフ市との交流を、御宿五倫文庫の石田常務理事がドイツのフランクフルト「ぼうぼう頭博物館」との交流について説明、「あしたの国とシュタイナー学園」は代表の子安美智子氏が説明された。また、12月17日(日)の写真展開会式は大使館主催のクリスマス・パーティーと一緒に行われ、会場中央には、6mに及ぶ立派なクリスマス・ツリーが飾られて、大使、中沢千葉県政策調整担当部長、平尾会長の挨拶があり、中沢部長はツリーの寄贈者であるグリーン・ステージ代表の鶴之沢隆氏を大勢の来場者に紹介された。結局当日は、橋本栃木県日独協会会長、井上いばらき県日独協会会長を初めとする招待者、当協会関係者60余名、出展者30余名など計120余名、大使館関係で200名と、延べ300名を越す盛会となり、18:00過ぎに閉会。なお今回の写真展では、千葉大学工学部の駒橋透さんに全面的に協力していただいた。



挨拶されるデア駐日大使